



リリース 8.0.2

「真の発見の旅とは、新しい風景を探すことではなく、新たな視点を持つことである。」
マルセル・プルースト

リリースノート

JMP, A Business Unit of SAS
SAS Campus Drive
Cary, NC 27513

このマニュアルを引用する際は、次の正式名称を使用してください。SAS Institute Inc.
2009.JMP® 8.0.2 リリースノート , Cary, NC: SAS Institute Inc.

JMP® 8.0.2 リリースノート

Copyright © 2009, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA

All rights reserved. Produced in the United States of America.

Web からのダウンロードや電子本の場合 : この出版物の使用については、入手した時点で、ベンダーが規定した条件が適用されます。

U.S. Government Restricted Rights Notice: Use, duplication, or disclosure of this software and related documentation by the U.S. government is subject to the Agreement with SAS Institute and the restrictions set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987).

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

2009年10月初版

JMP®, SAS® and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. ® indicates USA registration.

Other brand and product names are registered trademarks or trademarks of their respective companies.

目次

リリースノートについて	2	実験計画	7
[分析] メニュー	2	カスタム計画	7
一変量の分布	2	スクリーニング計画	9
二変量の関係	2	配合計画	9
一元配置	2	選択モデル計画	9
ロジスティック	3	タグチ配列	9
モデルのあてはめ	3	拡張計画	9
一般化線形モデル	3	標本サイズ/検出力	9
REML および混合モデル	3	ディスプレイ	9
モデル化	3	[グラフ] メニュー	10
スクリーニング	3	グラフビルダー	10
非線形回帰	3	チャート	10
ニューラルネット	3	三次元散布図	10
Gauss 過程	3	バブルプロット	10
パーティション	3	セルプロット	11
時系列分析	4	ツリーマップ	11
選択モデル	4	管理図	11
多変量	4	多変量管理図	11
多変量	4	変動性図/ゲージチャート	11
クラスター分析	4	工程能力	11
判別分析	4	プロファイル	11
PLS	5	プロファイルシミュレータ	12
信頼性/生存時間分析	5	曲面プロット	12
寿命の一変量	5	データの読み込みと書き出し	12
寿命の二変量	5	データの読み込み	12
生存時間(パラメトリック)の あてはめ	6	Excel	12
カスタムのメニューとツールバー	6	JMP インストーラ	12
データテーブル	6	ジャーナル	13
列プロパティ	6	Linux	13
データフィルタ	6	Macintosh	13
データの検索	6	環境設定	14
計算式エディタ	7	印刷	14
[テーブル] メニュー	7	SAS インテグレーション	14
要約	7	スクリプト	14
サブセット	7	オートメーション	15
結合 (Join)	7	Windows	15
表の作成	7		

リリースノートについて

このリリースノートでは、JMP 8.0.2 で修正された問題について説明しています。JMP 8.0.1 のリリースノートは、http://www.sas.com/software/distribution/readme/jmpmnt_slu_801_MAINT_/JMP_801_release_notes_JP.pdf でご覧ください。

[分析] メニュー

一変量の分布

- 平滑曲線をあてはめたとき、または平滑曲線をあてはめて密度関数を保存したときに JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- データの重みや度数の列に、負の値または欠測値が含まれている場合に、次の機能を使用したとき、データが正しく処理されるようになりました。

- 正規のあてはめ	- 指数のあてはめ
- 平滑曲線のあてはめ	- ベータのあてはめ
- ガンマ Poisson のあてはめ	- 符号付き順位検定
- ガンマのあてはめ	- 信頼区間
- Poisson 分布のあてはめ	- 工程能力分析
- ベータ二項のあてはめ	- AICc
- データに欠測値がある場合に Poisson 分布をあてはめると対数尤度が欠測値となる問題が修正されました。
- CPM の信頼区間が正しく計算されるようになりました。
- 3 パラメータ Weibull 分布において、[分布パラメータの指定] オプションで θ の値を指定した場合に、結果が正しくなりました。
- データがすべて正の場合しか指数分布をあてはめることができませんでしたが、データに 0 を含む場合でもあてはめるようにしました。
- 手のひらツールでヒストグラムの棒を変更した後に、[棒の幅の設定] コマンドを使った場合に、軸の値とヒストグラムの棒が更新されるようになりました。
- [自動再計算] オプションをオンにし、データテーブル内のデータ値を変更した場合に、統計量とグラフが自動的に更新されるようになりました。
- 度数と重みを指定し、度数の値が 0 である行が少なくとも 1 つある場合に、工程能力の信頼限界が正しく計算されるようになりました。
- 度数の値が大きい場合に適合度検定を実行すると JMP が終了してしまう問題が修正され、警告メッセージが表示されるようになりました。
- 閾値つき Weibull 分布をあてはめた場合に、信頼限界が正しく計算されるようになりました。

二変量の関係

- [自動再計算] オプションがオンの場合、それがスクリプトに保存されるようになりました。

一元配置

- スクリプトにおいて、[最小有意数を求める] もしくは [最小有意値を求める] を指定し、さらに、[検出力プロット] を指定した場合に、JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- スクリプトにおいて、[対応のある列を設定] の引数として、列名だけでなく、列の番号を示す整数が使用できるようになりました。

ロジスティック

- データテーブルのすべての行を除外した上でロジスティック分析を実行しようとする、分析ができないことを示すエラーメッセージが表示されるようになりました。

モデルのあてはめ

- Where 節を含むスクリプトによって行われた分析で、[スクリプトをデータテーブルに保存] コマンドによってスクリプトがデータテーブルに保存できない問題が修正されました。

一般化線形モデル

- スクリプトにおいて、プロファイルに対する [項の値] (Term Value)、[満足度関数] (Desirability Functions)、[満足関数の最大化] (Maximize Desirability) といったオプションが無視される問題が修正されました。
- Firth バイアス調整推定値を使用したとき、効果の検定における値が間違っていて計算されていた問題が修正されました。

REML および混合モデル

- REML 分析で計算された信頼区間をデータテーブルに保存する際、 α の値を 0.05 以外に設定しても、95% 信頼区間が保存されてしまう問題が修正されました。

モデル化

スクリーニング

- X と Y に同じ変数を指定すると、エラーメッセージが表示されるようになりました。

非線形回帰

- モデルライブラリに含まれる「バイオアッセイ 5PL (グループ)」を、応答が 0,1 のデータセットに使用した場合も、正しく機能するようになりました。
- プロットをオフにしてからスクリプトを保存し、そのスクリプトを再実行したとき、プロットが表示されてしまう問題が修正されました。
- 起動ダイアログボックス以外の場所で [2 次微分した式] を指定した場合に、それが機能しない問題が修正されました。
- ローカル変数を設定したときにエラーメッセージが表示されるエラーが修正されました。

ニューラルネット

- [複数のモデルをあてはめ] によってあてはめられた複数のモデルから 1 つのモデルを選択した際に、選択されたモデルのパナルティの値が正しくない問題が修正されました。

Gauss 過程

- 3 次の相関関数の感度が正しく計算されるようになりました。

パーティション

- 除外した行が 20% より多くないと [実行] ボタンが表示されませんでしたでしたが、12.5% 以上であれば表示されるように変更されました。
- スクリプトで、初期分岐の数を多く設定し、[分岐の最小サイズ] (Minimum Split Size) にデフォルト以外の値を設定した場合に JMP が終了してしまう問題が修正されました。

時系列分析

- 差分を取らない ARIMA モデル (ARMA モデル) を複数あてはめた場合に、モデルが指定された順序によって結果が異なるという問題が修正されました。

選択モデル

- Firth バイアス調整推定値を使用したとき、効果の検定における値が間違っして計算されていた問題が修正されました。
- Macintosh で、「選択モデル」レポートから [モデルダイアログ] コマンドを実行した後に、[ファイル] メニューをクリックした場合に JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- テーブルが 1 つしかない場合の分析で、[スクリプトをデータテーブルに保存] コマンドが淡色表示になってしまう問題が修正されました。

多変量

多変量

- すべての行において欠測値があるデータテーブルにおいて、REML の結果が間違っしたものになる場合があるという問題が修正されました。
- 推定法で [ペアワイズ] もしくは [リストワイズ] を選択し、[多変量の基本統計量] を選択したときに、自由度が負になる場合がある問題が修正されました。負の自由度になるような場合、および、[ペアワイズ] が選択された場合には、[多変量の基本統計量] は選択できないようになりました。
- 「主成分分析」プラットフォーム、もしくは推定法を [デフォルト] とした「多変量」プラットフォームを、中規模のデータに対して実行したとき、計算時間が非常に長くなり、計算が終了しない場合があるという問題が改良されました。
- [外れ値分析] のプロットに欠測値のある行もプロットされてしまう問題が修正されました。
- リストワイズ法を選択した場合には、[欠測データの補完] オプションを淡色表示にして、選択できないように変更しました。
- 変数間に線形従属性があるデータに REML 法や最尤法を行った場合、[多変量の基本統計量] の平均が正しく計算されない問題が修正されました。
- データにかなりの数の欠測値がある場合に、REML 法、最尤法、およびロバスト法による推定が正しく計算されない問題が修正されました。

クラスター分析

- カテゴリカルな列を含むデータに対して高速 Ward 法を使用すると JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- 欠測値や除外された行があるデータテーブルに対して [クラスターの保存] オプションを実行したとき、保存されたクラスター番号が間違っている問題が修正されました。
- K-means クラスター分析で、[データの標準化] オプションがオフでも、標準化されたデータからシードが計算されていましたが、オフの場合には標準化しないデータからシードが計算されるようになりました。
- 階層型クラスター分析におけるカラーマップの凡例において、カテゴリカルな列に対するラベルの一部が表示されない問題が修正されました。
- 樹形図の中でズーム機能を多用すると JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- [変数間クラスター] を行ったときに描かれるカラーマップにおいて、列名の下部にマーカーが表示される問題が修正されました。

判別分析

- Macintosh で、三次元正準プロットのグラフィックを PNG 形式で保存すると空白になってしまう問題が修正されました。

PLS

- [点の表示] オプションをオフにして、点を非表示にした後に、レポートウィンドウを閉じたときに JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- すべての値が同じ列がデータにあるときに、中心化と尺度化を行って PLS を実行した場合、保存される予測値が欠測値となる問題が修正されました。

信頼性／生存時間分析

- 「寿命の一変量」プラットフォームと「生存時間分析」プラットフォームで、区間打ち切りデータに対する Turnbull 推定値を用いた生存プロット、故障率プロット、および表において、正しい時間区間が算出されない問題が修正されました。
- 生存確率 $S(t)$ の推定値が、求めたい分位点のパーセント (25%, 50%, 75%) と全く等しくなった場合に、分位点の推定値が正しく計算されない問題が修正されました。
- 中央値 (メディアン) の上側信頼限界が Brookmeyer and Crowley の手法に従って算出されるようになりました (JMP 8.0 および JMP 8.0.1 では Klein and Moeschberger)。
- WeiBayes 分析における分位点推定の信頼区間が正しい幅になりました。
- 指数分布で θ を特定の値に固定した場合、 θ の値が正しく表示されるようになりました。また、収束しないことを示す警告メッセージが表示されなくなりました。
- WeiBayes 分析において、尺度パラメータ (Weibull 分布の α や、対数正規分布の μ) の点推定値と信頼区間が欠測値となってしまう場合があるという問題が修正されました。
- 「生存時間分析」プラットフォームで、右側打ち切りが非常に多いデータに指数分布をあてはめ、[生存率の推定] コマンドや [時間分位点の推定] コマンドを実行したときに、それらの結果における標準誤差および信頼区間が正しくないという問題が修正されました。

寿命の一変量

- 「パラメトリック推定」アウトラインにおける [尤度等高線の表示] オプションがスクリプトに保存されないという問題が修正されました。
- イベントプロットで、X 軸の [対数軸] オプションを選択したときに水平な線が消えてしまう問題が修正されました。
- イベントプロットで、度数のテキストが読めない場合がありますが、[イベントプロットで度数を表示] コマンドを使って度数のテキストの表示・非表示を切り替えられるようになりました。
- イベントプロットで、非表示の行に対しては水平の線が表示されなくなりました。
- 信頼区間の方法として [プロファイル] を選択した場合、分布プロファイルと分位点プロファイルで、一般化ガンマと一般化対数ガンマの信頼区間曲線が正しく計算されないという問題が修正されました。
- 閾値分布の累積分布関数 (CDF) が途中で屈曲せずに、単調増加関数になるように変換されるようになりました。
- 「寿命の一変量」プラットフォームと「寿命の二変量」プラットフォームで、確率プロットの確率スケールを変更したときに、最小値と最大値が変化してしまう問題が修正されました。
- 「パラメトリック推定 - 指数」のドロップダウンメニューで、[確率推定値の保存] や [分位点推定値の保存] を選択したときに、保存された指数分布の信頼区間が正しくないという問題が修正されました。

寿命の二変量

- Weibull 分布のモデルで、「別々の位置」と「別々の位置と尺度」のレポートに α と β の値が追加されました。
- Cox-Snell 残差 P-P プロットにおいて、打ち切りデータが多数ある場合、軸の範囲が調整されるようになりました。
- 散布図に除外された行が表示されるようになりました。
- 区間打ち切りの場合に、散布図に非表示の行が垂直線で表示されるエラーが修正されました。
- [すべての分布のあてはめ] を実行した場合、「比較の規準」タブに表示されるモデルが対数尤度の順に並ぶようになりました。

- 「比較の規準」タブで、すべてのデータが打ち切りであるか、非打ち切りが1つしかないグループがある場合に、AICc と BIC の値が間違っ て計算される問題が修正されました。
- 説明変数がカテゴリカルの場合のデフォルトの関係が「効果なし」から「別々の位置」に変わりました。
- 「寿命の二変量」の回帰モデルの「複数群の確率プロット」に基準値が表示されるようになりました。
- 最初に生成されるノンパラメトリックの確率プロットの上下に、過剰な空白部分がなくなりました。
- 度数の値が 0 であるデータがある場合に JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- グループの数が多 い場合にスクロールすると JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- ハザードプロファイルと密度プロファイルに信頼区間の値が表示されなくなりました。

生存時間 (パラメトリック) のあてはめ

- データテーブルの行数が数千に及ぶときの計算時間が短縮されました。
- 指数分布で、(-2)* 対数尤度、AICc、BIC の値が正しく計算されるようになりました。
- 指数分布で、「モデル全体の検定」と「効果の尤度比検定」の p 値が正しく計算されるようになりました。

カスタムのメニューとツールバー

- Windows Vista 上でカスタムメニューを編集する際、「メニュー項目のプロパティ」ウィンドウの「アイコン」タブを開いて [参照] ボタンをクリックした後、任意のビットマップイメージを選択して [開く] ボタンをクリックすると JMP が終了してしまう場合がある問題が修正されました。
- ツールバーの書き出しを行ったとき、ツールにより実行する JSL の情報が含まれない問題が修正されました。

データテーブル

- マウスのスクロールホイールを使って縦にスクロールした場合、データテーブルの行の表示が正しく更新されない場合がある問題が修正されました。
- テーブル変数とテーブルプロパティ/スクリプトを同じ名前で作成した後、テーブルスクリプトを編集しようとすると JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- 同じ名前のテーブルプロパティとテーブル変数がある場合、テーブルプロパティを削除しようとするとテーブル変数が削除されてしまう問題が修正されました。

列プロパティ

- JSL で列を作成したとき、または列の形式を変更したときに、フィールドの幅が自動的に調整されるようになりました。その結果、値の代わりに ### が表示されてしまうという問題が修正されました。
- 列の値がすべて欠測値である場合に [列の値による色 / マーカー分け] を選択すると JMP が終了してしまうエラーが修正されました。

データフィルタ

- データフィルタが開いた状態で JSL の Quit コマンドを発行すると JMP が異常終了してしまうエラーが修正されました。

データの検索

- 表示形式の設定により、表示されている値に文字が含まれる数値列を検索した場合に、それらの文字が正しく見つけられるようになりました。これまでは、値ラベルまたは表示形式が設定されている列を検索する場合は [大文字 / 小文字を区別] オプションを有効にしないと正しく機能しませんでした。

計算式エディタ

- スクリプトで、計算式を含まないデータテーブルに対して **Run Formulas** コマンドを実行したときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- Macintosh で、計算式内のある値を削除し、再び値を入力した場合に、その値をもう一度 delete キーで削除しようとするとき正しく削除されない問題が修正されました。
- Macintosh で、不完全な計算式を適用してもエラーメッセージが表示されない問題が修正されました。
- Johnson S1 分布の関数で引数のヒントが表示されないという問題が修正されました。
- 計算式の中に循環型依存関係がある場合（たとえば、列 A が列 B に依存し、列 B が列 A に依存する場合）に表示されるエラーメッセージやダイアログボックスが改善され、わかりやすくなりました。

[テーブル] メニュー

要約

- サブグループのある要約表に分位点を追加したときに JMP が終了してしまう場合がある問題が修正されました。

サブセット

- 元のデータテーブルにリンクしたサブセット作成した場合、テーブルプロパティやスクリプトがサブセットのテーブルにコピーされるようになりました。

結合 (Join)

- 「行の属性」列を出力列および対応する列として使用できるようになりました。
- JSL を使って対応する列の値によりテーブルを結合する際、対応のある列を指定しないと JMP が異常終了してしまう問題が修正されました。

表の作成

- 列テーブルにすでに統計量を指定してある場合に、行テーブルに統計量を追加しようとしたときに誤った結果が表示される問題が修正されました。分析列で生じていた同種の問題も修正されています。
- ダイアログボックスを使ってテーブルを作成した場合に、ダイアログボックスで指定した統計量と異なるものが表示される問題が修正されました。
- 列テーブルに指定されている統計量の形式を変更した後に分析のやり直しを行った場合、変更前の形式が使用される問題が修正されました。
- テーブルに 2 つ目またはそれ以上の「全体に対する %」を追加できるようになりました。

実験計画

- 変更が困難な因子がある実験計画や、乱塊法による実験計画、固定効果のブロック因子がある計画、Scheffe の 3 次項を含むモデルで、デフォルトの実験回数と最小実験数が正しく計算されない問題が修正されました。

カスタム計画

- 中心点と反復を追加すると、計画の診断統計量が更新されるようになりました。
- カスタム計画に [調整不可能] な因子を追加して計画を作成したときに JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- 範囲制約を線形不等式制約として入力した場合に、その範囲制約が計画に反映されない問題が修正されました。
- [詳細オプション] の [配合成分の合計] で呼び出されるウィンドウに編集ボックスが 2 つありましたが、一定でない配合成分に対して 0 より大きい数値を指定する編集ボックスは不要であるため、削除されました。

- ブロック計画で反復を追加した場合の診断統計量が正しく計算されるようになりました。
- **[実験計画 (DOE)]** ダイアログボックスの **[スクリプトをスクリプトウィンドウに保存]** オプションを実行した際に、**[配合成分の合計]** (Mixture Sum) コマンドが自動的に保存されるようになりました。
- 計画の制約が一貫していないときにエラーメッセージが表示されるようになりました。
- スクリプトによって計画を作成する場合に **[配合成分の合計]** (Mixture Sum) コマンドが使えるようになりました。
- カスタム計画の作成時に「**因子あたりの検索ポイント**」の値が無視される問題が修正されました。
- **[計画の作成]** を実行した際に、範囲制約と等価な線形制約における係数がすべて 0 に変わってしまう問題が修正されました。
- **配合成分の合計** を 2 度同じ値に設定したときに、因子の範囲が不要に更新されなくなりました。
- 配合以外に対しては制約のない D- 最適配合計画において、中途半端な因子値が出ないように改良されました。
- **[制約の保存]** コマンドで、制約のデータテーブルを作成できるようになりました。
- 共変量を含む計画で線形制約を設定した場合に、JMP が終了してしまったり、誤った値の計画が作成されてしまう問題が修正されました。
- 調整不可能な因子を含む計画で線形制約を設定した場合に、JMP が終了してしまいう問題が修正されました。
- I- 最適計画において **[球の半径]** を設定した場合に、JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- 計画に含まれる配合因子の多数が配合成分の合計より小さい上限値を持つ場合に、計算時間が非常に長くなり、結果が戻ってこないという問題が改善されました。
- **[許可しない組み合わせ]** が原因で計画が特異になる場合には、警告メッセージを表示するようになりました。
- ブロック計画を反復し、「カスタム計画」ウィンドウを閉じると JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- 「計画の診断統計量」パネルの D 効率が、最終的な計画の D 効率と一致していないという問題が修正されました。
- 「定数」の因子がある実験計画をスクリプトに保存した場合に正しくないスクリプトが保存される問題、および「定数」の因子が「連続」因子になってしまう問題が修正されました。
- 変更が困難な因子がある実験計画の実験順序において、変更が容易なカテゴリカル因子がランダムに並べられるようになりました。
- データテーブルから数値のカテゴリカル因子を「カスタム計画」プラットフォームにロードしたときに、実際の値ではなく、通し番号が因子の水準に使われるという問題が修正されました。
- 応答曲面計画を作成した後に、**[戻る]** ボタンを押して計画を再作成すると誤った診断情報が表示されてしまうという問題が修正されました。
- **[戻る]** ボタンを使わずにモデル項を削除しようとする JPM が終了してしまいう問題が修正されました。
- スクリプトによって実験計画を作成するときに、**[開始点の数]** (Number of Starts) と **[項の追加]** (Add Term) で指定した値が反映されないという問題が修正されました。
- 共変量のある実験計画で、計画を作成し、**[テーブルの作成]** をクリックすると計画の診断統計量が変わってしまう問題が修正され、正しい値が表示されるようになりました。
- JMP のローカライズ版で、一般環境設定ウィンドウにある **[英語でスクリプトを保存]** オプションをオンにしても「カスタム計画」で生成されたスクリプトが英語で保存されない問題がありましたが、修正されました。
- 分割実験計画において、Bayes 流の D- 最適計画が正しく作成されない問題が修正されました。

スクリーニング計画

- 実験数が 104 の「Plackett-Burman 計画（折り重ね）」を選択したときに JMP が終了してしまう問題が修正されました。

配合計画

- [配合成分の合計] オプションを変更すると、因子の上限が自動的に更新されるようになりました。

選択モデル計画

- 同じ選択肢集合内において、属性がすべて同じ製品が生成されるという問題が修正されました。

タグチ配列

- 応答における「目標」テキストボックスが広げられ、テキストの一部が表示されない問題が解決されました。

拡張計画

- 計画に配合因子がある場合に、制約が正しく読み込まれないという問題が修正されました。
- 「 \geq 」の制約が正しく読み込まれない問題が修正され、不適切なエラーメッセージが表示されなくなりました。
- モデル項の追加によって計画の初期値が特異となった場合、または、特異な初期値だけではなく、非特異な初期値が見つかった場合には、エラーメッセージが表示されなくなりました。
- [戻る] ボタンを押したときに推奨実験数が変わってしまう問題が修正されました。
- ブロック因子をもつ計画にモデル項を追加すると正しくない計画が作成されてしまう、または JMP が終了してしまうという問題が修正されました。
- ブロック因子をもつ応答曲面計画およびスクリーニング計画を拡張する前に、ブロック因子の列名を変更すると JMP が終了してしまう、または欠測値のある計画や正しくない計画が作成されてしまう問題が修正されました。
- [追加する実験を別のブロックに入れる] にチェックマークをつけた後、[拡張] をクリックするとチェックマークが外れてしまう問題が修正されました。
- 「拡張」プラットフォームに因子をロードすると JMP が終了してしまう問題がありましたが、因子のロード自体ができないようになりました。
- [X 行列の保存] オプションと [反復]、[中心点の追加]、[折り重ね]、[軸点の追加] のいずれかを組み合わせると JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- ブロック因子のある計画を拡張した後、[戻る] ボタンを押した場合に正しくない計画が作成されてしまう、または JMP が終了してしまう問題が修正されました。

標本サイズ/検出力

- 1 標本割合と 2 標本割合の両方で、両側検定だけでなく、片側検定に対する計算もできるようになりました。また、検出力や標本サイズの算出方法が二項分布に基づく正確法に統一されました。

ディスプレイ

- マーカーのサイズを大きくするとラベルが隠れてしまう問題が修正されました。
- テキストの切り取り、削除、不適切な場所への貼り付けを行った場合ダイアログボックスの表示がおかしくなる問題が修正されました。
- 散布図のスケールを [線形] から [対数] に変更すると一部の点が消えてしまう問題が修正されました。

- [列の値による色/マーカー分け] のウィンドウなどで凡例を右クリックして色を変更する動作に次のような修正が加えられています。
 - [色] サブメニューのカラーパレットがグレースアウトされる問題が修正されました。
 - [カスタム] で選択した色が正しく表示されるようになりました。
 - [カスタム] で選択した色が行に適用されるようになりました。

[グラフ] メニュー

グラフビルダー

- 順序尺度の列を「**段組**」に設定した場合に、各グループの範囲が適切に設定されるように改善されました。
- グループ Y をもつグラフをコピーして、他のアプリケーションに貼り付けたとき、そのグループ Y のラベルが長い場合に、ラベルが途中で折り返され、2 列目の文字が切られてしまう問題が修正されました。
- 水準数の多い名義尺度のデータ列を複数選択してドラッグすると JMP のメモリ容量が足りなくなる問題が修正されました。
- カテゴリカル変数を 1 つだけ含むグラフのデフォルトのものが、データ数が多い場合に不適切なものになる問題が修正されました。
- データに複数の Y 変数がある場合に、棒のスタイルを **[積み重ねて表示]** に変更すると JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- 「JMP スターター」ウィンドウから「グラフビルダー」プラットフォームがうまく起動しない問題が修正されました。

チャート

- 折れ線グラフと誤差バーを組み合わせたときのために、**[誤差バーの追加]** オプションが折れ線グラフで使用できるようになりました。
- ラベルが空白になっている棒をクリックすると JMP が終了してしまう問題が修正されました。

三次元散布図

- 3D シーンのスクリプトを作成した際に、更新 (update) を 2 回実行すると JMP が終了してしまう問題が修正されました。

バブルプロット

- グループ変数がある場合に、時間のラベルが切れて一部が表示されない場合があるという問題が修正されました。
- 時間変数を指定せず、**[軌跡線]** オプションを選択したときに JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- バブルプロットを Flash ファイル (SWF) として保存したときに、対数スケールのラベルが正しく表示されない問題が修正されました。
- ID 列を 2 つ指定した場合に、1 つ目の ID 列を変更してからバブルを分割し、分割されたバブルの 1 つをクリックすると JMP が終了してしまう問題がありましたが、修正されました。
- Flash ファイルにおいて、軸から一部がはみ出しているバブルも選択できるようになりました。

- Flash ファイルにおいて、[すべてのバブルにラベルを付ける] オプションを選択した後に、ズームインまたはズームアウトするとラベルが消えてしまう問題が修正されました。
- Flash 形式のバブルプロットのアニメーションを再生中、[リセット] オプションを選択するとアニメーションが停止するようになりました。

セルプロット

- カテゴリカルな列に欠測値がある場合、その欠測値に対して正しい色（白）が割り当てられない問題が修正されました。

ツリーマップ

- 最初に除外されていた行に対して除外を解除したときに、色が消えて白色で表示される問題が修正されました。

管理図

- EWMA 管理図のウェストガードルールにおいて、間違っって頻繁に検出される問題が修正されました。
- スクリプトで管理図を作成する場合、[標本ラベル] (Sample Label) コマンドの引数として、Empty() が使用できるようになりました。
- Levey-Jennings 管理図において、保存されているデータテーブルから管理限界を読み込むことができないという問題が修正されました。
- 予め集計管理図の工程能力分析において、標準偏差の値が正しく計算されない問題が修正されました。

多変量管理図

- [変化点の検出] オプションをオフにしても、関連する散布図行列が非表示にならないという問題が修正されました。

変動性図／ゲージチャート

- 変動性図で、X 軸に示される値のラベルが長い場合に、フレームのサイズを変更できるようになりました。

工程能力

- スクリプトにおいて [仕様限界の読み込み] (Import Spec Limits) コマンドを用いた場合に、エラーメッセージが表示されてしまう問題が修正され、仕様限界が正しく読み込まれるようになりました。
- 分析をスクリプトに保存した際に、**度数**および**重み**の列が保存されないという問題が修正されました。

プロファイル

- Flash ファイルに保存したプロファイルにおいて、カテゴリカル因子に誤った水準が追加されてしまう問題が修正されました。
- 制約とロックされた変数が複数ある場合に、最適化がうまく機能しない問題が修正されました。
- [計算式の展開] 列プロパティを 0 に設定することにより、該当する列の計算式を展開しないようにすることができるようになりました。
- 現在の軸の範囲から外れた因子値を指定した場合に、値が拒否されるのではなく、軸の範囲がその値を含むように変更されるようになりました。
- 列に保存した計算式に対する信頼区間が、「モデルのあてはめ」プラットフォームのものと一致するようになりました。
- Flash ファイルで、青色の三角アイコンで開いたメニューから [リセット] を選択したときと、軸から離れたところで右クリックして [リセット] を選択したときの動作が一致するようになりました。
- Flash ファイルに保存したプロファイルで、対数軸の処理が改善されています。

プロファイルシミュレータ

- スクリプトから [シミュレート] (Simulate) コマンドを実行すると JMP が終了してしまう問題が修正されました。エラーの原因は、過度に大きい不適切なテーブルを作成した場合に JMP のメモリ容量が不足することでした。
- プロファイルとシミュレータを選択し、コピーした場合に、JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- [固定] が設定された入力因子に対して、「数列」において [位置母数の等差数列] を指定した場合でも、定数がデータテーブルに出力される問題が訂正され、指定された数列の値がテーブルに配置されるようになりました。

曲面プロット

- Macintosh で、スクリプトの [イメージとして保存] (Save Picture) コマンドが Native、JPEG、PNG のファイル形式に対応するようになりました。
- ジャーナル化に対応していないディスプレイボックスをジャーナルとして保存しようとするとうと JMP が終了してしまう問題が修正されました。

データの読み込みと書き出し

データの読み込み

- [データとしてプレビューで開く] でテキストファイルを読み込んだときに、欠測値のみの列に形式が設定されない問題が修正されました。その後、テーブルを SAS データセットとして保存してもエラーになりません。
- Linux で、読み込みのダイアログウィンドウ内の列名左にあるアイコンが正しく表示されるようになりました。
- Macintosh で、プレビューのウィンドウ内で列名をクリックしても編集できない問題が修正されました。
- 引用符で囲まれた範囲内にある区切り文字 (通常はカンマまたはタブ) がフィールドの区切り文字とみなされ、その部分で別の列に分けられてしまう問題が修正されました。
- CSV ファイルを読み込む場合に、環境設定のテキストデータファイルの「読み込みの設定」にある [アポストロフィを引用符として識別] が反映されないという問題が修正されました。

Excel

- [名前を付けて保存] ウィンドウで拡張子 (.xls または .xlsb) を指定せずに Excel ファイルとして保存しようとした場合に、エラーメッセージが表示される問題が修正されました。
- Excel ですでに開いている Excel ファイルを JMP で開こうとした場合に、正しく開けるようになりました。
- Excel から空のセルを JMP に貼り付けた場合、JMP のセルの値が上書きされない問題が修正されました。

JMP インストーラ

- Macintosh で次のフォルダに正しいアクセス許可が設定され、所有者でないユーザでもファイルを読めるようになりました。
/Library/Application Support/JMP/8
- Macintosh で、JMP 8.0.2 のトライアル版をダウンロードした場合、アクティベーション後にユーザ登録を促すウィンドウは表示されなくなりました。

ジャーナル

- 文字列のリストと並べたチェックボックスを含むウィンドウからジャーナルを作成すると JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- グラフからジャーナルを作成、保存したときに、それがフォントのカスタマイズの情報を含んでいると、そのジャーナルを開こうとしたときにエラーが発生する問題が修正されました。
- 「表の作成」のレポートを含むジャーナルにテキストアイテムを追加し、それを表のアウトラインの下にドラッグすると消えてしまう問題が修正されました。
- ジャーナルがグラフビルダーで作成したグラフを複数含む場合、それらのグラフを削除しようとしても削除できない場合がある問題が修正されました。
- 箇条書きにされたテキストアイテムが選択された場合、背景だけでなくテキストもハイライト表示されるようになり、読みやすくなりました。
- グラフビルダーの箱ひげ図で、「凡例」として指定されている列がある場合、これをジャーナルに保存して再度開くとエラーが発生する問題が修正されました。
- グラフの中にラベルがついた参照線とついていない参照線がある場合、そのグラフをジャーナルとして保存してから再び開くと、ラベルのない参照線にもラベルがついてしまうという問題が修正されました。

Linux

- Linux インストーラの Web ビューアで、JPG ファイルや GIF ファイルを表示できるようになりました。
- Linux のマニュアルアクティベーション用 Web ページに正しいバージョンが表示されるようになりました。また、マニュアルアクティベーションのダイアログでテキストが一部欠ける問題が修正されました。
- 年間ライセンス版で、JMP.per ファイルの場所を確認するメッセージが誤って何度も表示される問題が修正されました。
- メニューバーから選択できるメニューのアイコンで表示されないものや誤ったアイコンになっているものがありましたが、これらがすべて修正されました。
- 環境設定を適用した後、[表示] メニューを開いたときに JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- JMP 8.0.2 がインストールされる場所を任意に指定できるようになりました。
- 共有ライブラリの問題により JMP のインストールが失敗してしまう、または他のシステムアプリケーションとのコンフリクトが生じる問題が修正されました。
- 十字ツール、なげなわツール、ブラシツールが正しく機能するようになりました。

Macintosh

- 「列情報」ウィンドウで、[列プロパティ] として [値ラベル] を選択し、「値」と「ラベル」のデータを入力して Return キーを押したときにウィンドウが閉じてしまう問題が修正され、入力データが正しくリストに追加されるようになりました。
- [ファイル] > [用紙設定] での指定が有効にならない問題が修正されました。
- 英語以外の言語で、ウィンドウツール、グラフツール、注釈ツールのアイコンがツールバーに正しく表示されない問題が修正されました。
- 「JMP について」のウィンドウに、会社名、サイト ID、使用期限を含むライセンス情報が表示されるようになりました。
- ファイルを開くとき、ピリオドを含む名前のディレクトリにもアクセスできるようになりました。
- 先頭行に //! があるスクリプトを開いたときに誤った警告が表示される問題が修正されました。
- 新しいライセンスファイル (SID) を適用するとき、ファイルを選択するウィンドウで txt ファイルが選べるようになりました。
- ファイルやパス名にスラッシュ (/) を使用した場合、ファイルを開くウィンドウなどで正常に選択できるようになりました。

- スクリプト内で `Open()` (引数なし) を使って CSV ファイルを開こうとした場合に、エラーメッセージが表示される問題が修正されました。
- グラフビルダーで、**グループ Y** のラベルの一部が隠れてしまう問題が修正され、テキスト全体が表示されるようになりました。
- JMP 5.1 またはそれ以前のバージョンで作成したデータテーブルの中に特定の特殊文字が含まれている場合、そのデータテーブルを開くとデータの一部が消えてしまうという問題が修正されました。
- 時間のかかる処理を行う際に表示される、進捗状況を示すウィンドウが開いている間、JMP のその他のウィンドウに対する操作が行えなくなるように修正されました。
- 項目分析を実行しているときに JMP が異常終了してしまう場合がある問題が修正されました。
- JSL の `Quit(NoSave)` コマンドが正しく動作しない問題が修正されました。

環境設定

- 「寿命の一変量」および「寿命の二変量」プラットフォームの起動ダイアログボックスに、環境設定で指定した打ち切りの値が反映されるようになりました。

印刷

- 長いデータテーブルを印刷するときにページ番号の下部が切れてしまうエラーが修正されました。
- 日本語版で、グラフの横軸がカテゴリカル変数の場合に横軸の水準値が印刷されない問題が修正されました。

SAS インテグレーション

- SAS 9.1.3 のストアプロセスで、30 を超える項目を含んだリストから複数の項目を選択できるようになりました。
- Linux で SAS プログラムファイルを保存するときに、正しいファイル形式 (.sas) が表示されるようになりました。また、SAS プログラムを開いたときに、エディタのウィンドウで SAS コードが色分けされるようになりました。
- Linux で SAS アウトプットウィンドウおよび SAS ログウィンドウを表示できない問題が修正されました。
- Macintosh で `GetSASLog` コマンドに `OnError` オプションを指定した場合、正しく動作しない問題が修正されました。
- SAS ODS で XML 形式を指定した場合、出力のデータ値が誤って欠測値になる問題が修正されました。
- SAS インテグレーションの接続がグループ ID に対応するようになりました。
- 非同期のサブミットをキャンセルした直後に再度非同期のサブミットを行うと JMP が異常終了してしまう問題が修正されました。

スクリプト

- `DataTable()` を使ってテーブル参照を取得しようとした場合、該当するデータテーブルが存在しないときにファイル選択ダイアログが表示される不具合が修正されました。
- `By` に指定した連続変数に欠測値がある場合、欠測値グループのレポートから保存したスクリプトを実行するとエラーが生じる問題が修正されました。このエラーは、JMP が `IsMissing()` 関数でなく `=` 演算子を使用していたために発生していました。
- Fit Model プラットフォームを起動した直後に数値列セルに任意の数値を割り当てた場合、JSL が起動時の結果を割り当てようとするエラーが修正されました。
- Linux で、`Window()` 関数が空白のリストを戻してしまう問題が修正されました。
- Fit Model オブジェクトに送られたメッセージが、そのオブジェクトの作成に使用したデータテーブルがすでにアクティブでない場合でも正しく機能するようになりました。

- RadioButtons の項目名に欠測値 ("": 空文字) を指定した場合に、その欠測値の項目が表示されない問題が修正されました。
- カスタム計画により作成されたデータテーブルにある「DOE ダイアログ」スクリプトを、**Run Script** を使って JSL から実行できない問題が修正されました。
- 行列の要素ごとに乗算する演算子を含んだ式において、JSL の構文解析が原因で行列の次元の一致に関するエラーメッセージが表示される問題が修正されました。
- $\log_{10}(x)$ 関数の計算精度が良くなりました。小さな整数の場合、 k と $\log_{10}(10^k)$ は完全に一致します。
- 空白の行列を添え字指定した場合に、エラーにならずに空白の行列が戻されるようになりました。
- JSL スケジューラが待機状態にあるときに CPU の使用率が 50 パーセント以上に上がることはなくなりました。
- リストボックス内の項目をキーボードを使って選択した場合、関連付けられているスクリプトが正しく実行されないという問題が修正されました。
- リストボックスで、項目が表示されていない空白部分をクリックすると関連付けられているスクリプトが実行されるようになりました。
- 計算式エディタで Random Johnson SI 関数を選択したとき、引数のボックスにヒントが表示されないという問題が修正されました。
- すでに閉じてあるデータテーブルを元に作成した列リストボックス (Col List Box) を選択したときに JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- Expr 関数によって作成した式を変更した場合、または式が作成される関数 (Derivative など) を使用した場合に、式によっては括弧が抜けている問題が修正されました。
- Mousetrap コマンドの中の、マウスボタンを押したときに実行されるスクリプトでウィンドウを閉じようとするとうと JMP が終了してしまう問題が修正されました。

オートメーション

- データテーブル内で、データの通貨記号を列ごとに指定できるようになりました。
- InsertDataVector コマンドは、データテーブルの先頭行と最終行にすべてのデータが挿入されるように修正されました。

Windows

- OS のロケールがフィンランド語に設定されている場合、インストール後に JMP を起動すると「JMP が正しくインストールされませんでした」というエラーメッセージが表示されてしまう問題が修正されました。
- 日本語版で、変動性図またはモザイク図を WMF ファイルとして保存した場合に、軸ラベルが消えてしまうエラーが修正されました。